



議会だより

ここのえ

発行 九重町議会

編集 議会広報特別委員会

平成30年10月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野止8番地の1

☎0973-76-3814 ☎FAX0973-76-3809

メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

体育祭テーマ

「ぶつかり合い」

町づくりにも求められる

町民議論

No.123 2018.10.17発行

9月定例会

- みなさんからの陳情はこうなりました P.4
- 29年度 予算の使い方をチェック P.6
- おでかけ議会の回答 P.8
- 8名の議員が一般質問 P.10
- 議会活動報告 P.18
- わたしのひとこと P.19

南山田・中板 飯田 憲治さん

東飯田・北代住宅 石松 裕輝さん

平成30年度一般会計補正予算(第3号)

第3回定例会を平成30年9月5日から25日まで開催しました。
報告2件、補正予算7件、決算認定7件、陳情1件を原案のとおり可決しました。
また、人事案件1件を同意しました。

補 正 額 **2,202万6千円増**
補正後の額 総額 **73億8,322万円**

◆ 補正予算主要内容 ◆

主な歳入	○繰越金	2億492万1千円
	○繰入金	△2億円
	○県営農業水利施設合理化事業分担金 (町内4水路 地元負担)	683万円
	○親元就農給付金事業補助金 (県補助金)	250万円
主な歳出	○県営農業水利施設合理化事業負担金	2,144万6千円
	○親元就農給付金事業補助金	500万円

(特別会計は、決算に伴う繰越金の決定が主な要因です)

平成30年度 国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

8,168万7千円増 総額 15億9,580万8千円

平成30年度 水道特別会計補正予算(第1号)

1,515万7千円増 総額 1億2,487万4千円

平成30年度 飯田高原診療所特別会計補正予算(第1号)

250万3千円増 総額 7,203万2千円

平成30年度 介護保険特別会計補正予算(第2号)

8,183万3千円増 総額 15億3,341万4千円

平成30年度 介護サービス事業特別会計補正予算(第1号)

304万3千円増 総額 2,666万2千円



祝

消防操法大会県大会優勝 全国大会出場経費を追加



見事な操法を披露、全国大会ガンバロー

8月19日、由布市の消防学校で開催された第30回「大分県消防操法大会」。

町代表の第6分団13部（野矢地区）が見事に優勝を勝ち取り、10月19日に開催される全国大会出場となりました。

今議会において、必要予算が提案され、満場一致で可決されました。

大会当日は、代表して、議長、副議長も応援に行きます。

全国大会にむけた予算 合計 894万円

旅費等	約564万円
消耗品	約140万円
操具輸送	約 35万円
バス借上等	145万円

人事案件

教育委員の
再任に同意



小幡 弘さん
東飯田 川上一

小幡弘氏の任期が、10月7日までとなっており、同氏を再任することについて満場一致で同意しました。

補正予算質疑

佐藤明郎議員

Q 子育て支援ニーズ調査分析業務委託は、計画的なものであり、なぜ補正なのか。

A 県が急に取り組む事となったためである。

Q 県の調査結果が我が町の子育支援に有効活用できるか。

A そのように努力する。

増田裕子議員

Q 親元就農給付金が計上されているが内容はどうか。

A トマト、畜産など対象者5名分である。

Q ハザードマップの作成、具体策は。

A 県がもっているデータを基に、より見やすいマップ作りに努める。

総務建設産業常任委員会

審査報告

議案
5件

陳情
1件

可決された案件

九重町犯罪被害者等
支援条例の制定について

犯罪被害者等が受けた被害の早期回復、軽減並びに犯罪被害者等の再建を図ることを目的としたものです。

九重町議会の議決に付すべき
契約及び特に重要な施設の
廃止に関する条例の一部
改正について

公民館がふれあい交流センターに併設されることにともない、ふれあい交流センターを規定に追加するものです。

町税特別措置条例の
一部改正について

地域活力の再生を効果的に促進するため、課税特別の

適用範囲を拡大し、固定資産税の課税免除等を行うものです。

九重町営住宅の設置
及び管理に関する条例の
一部改正について

犯罪等により、被害を受けた方が、引き続き居住が困難になった町民等を、一時的に町営住宅に居住できるようにするものです。

旅館営業を目的とした
建築の規制に関する条例及び
災害派遣手当の支給に関する
条例の一部改正について

従来の旅館営業法は施設の構造が和式か洋式の違いで、旅館営業とホテル営業に区別されていましたが、改正により「旅館・ホテル営業」に統合されたため字句改正を行うものです。



みなさんからの陳情は、
こうなりました

町道認定

国道387号線の川底橋（桐木四地区）から集落まで延長14.8m幅員4mの道路で、住民の高齢化が進み、関係者だけでは維持管理が困難であるので、里道を町道に認定するものです。



町道認定:現地確認の様子



第115回玖珠郡畜産品評会

昨年宮城県で開催された和牛共進会で大分県は3位となりました。九重町の和牛も大きな貢献をしました。今年も共進会で多くの出品牛が入賞しています。県でも百年のめぐみ「おおいた和牛」がブランドになるように取り組んでいます。町も県と共に取り組んでいますので、議会も議長を先頭に共進会の応援など、「おおいた和牛」のブランド化に取り組んでいます。



9月落成した野上ふれあい交流センター(公民館)

ふれあい交流センター利用料と免除はこうなります

料金は30分単位。これまでとあまり変わりません。

《ふれあい交流センター利用料等早見表》

番号	利用団体	備考	使用料	冷暖房料	水道ガスIH
①	町内公共機関				免除
①	財源(一部)が公共機関	委託・補助金	免除	免除	免除
②	町内の社会教育関係団体		免除		
③	町内の社会教育団体以外	基準に該当		有料	有料
④	町内の社会教育団体以外	基準に非該当	有料	有料	有料

【利用団体例】

- ① まちづくり協議会、青少年健全育成協議会、社会福祉協議会、体育協会、人権・同和問題啓発推進協議会、女性会議等
- ② PTA、少年野球、柔道クラブ、老人クラブ、社会教育委員、スポーツ推進委員等
- ③ 行政区、子ども会、詩吟や大正琴等、商工青年・女性部、JAやNOSAI等(町民向け説明会)
- ④ 私的な利用、私益活動、私塾(そろばん教室等)

通学路の安全対策

- ブロック塀を撤去します。
旧東飯田中学校グラウンド、旧飯田中学校グラウンド、南山田ふれあい交流センター町道沿い
- 安全対策看板を設置します。(野上小)

教育民生観光常任委員会

審査報告

議案
1件

可決された案件

町文教施設使用条例等の一部改正について

野上ふれあい交流センター(野上公民館)が完成しました。新しい施設を使用するにあたって、関係する3条例の整備をします。

8/22

学習会をしました

健康福祉課の日野リーダーと小橋リーダーに講師をお願いしました。

- ① 介護保険制度について
- ② 「九重町第5期障がい福祉計画」と「九重町第1期障がい児福祉計画」について



使い方をチェック

決算審査特別委員会報告



特別委員会を設置

平成30年第3回九重町議会定例会において、議員6名により決算審査特別委員会を設置し、一般会計及び特別会計の平成29年度決算分について、4日間にわたり審査。

議会決算特別委員会に託された重要な役割に基づき、書類審査、事情聴取、現地調査を実施し、慎重に審査を行いました。

委員長が本会議で報告し、各種会計決算を認定しました。

議会の重要な役割

- 議会が決定した予算が適正に執行されたか審査
- 住民に代わって行政効果を評価する
- 税金の使い方を検討し、今後の行財政運営に役立てる



各課ヒアリングの様子
※各課から事業実施の内容、状況等を確認していきます。

決算審査特別委員会とは？

決算特別委員会は、議会の重要な権限の一つである「決算認定」を行うため、特別に設置される委員会です。

予算が実際にどのような使われ方をしたのか、決算についても審査をして、予算が適正かつ妥当に使われたのかを認定します。

不適切なものや非効率なものがあれば、質疑を通じ、今後の予算編成に反映させるよう要望しました。



29年度 予算の

決算認定における



実際に現地にて

- パークマット(製造機、格納庫、利用農家のハウス)
- オルレコース
- クロスカントリーコース の現状を確認



パークマットの説明を受ける様子
※新しい技術は興味深く、今後の展開も気になるところ。

決算認定に当たっての付帯意見の概要

●収入未済について

平成28年度分と比較して、一般会計においては、町税、使用料、負担金、諸収入等の収入未済額が減少し、収入率についても改善された。

●不用額について

大半は、節約や工夫によって生じたものや制度改正等によるもの、また災害等に備えてのものだと思われる。予算編成に当たっては、必要な予算を厳選して計上し、計上した予算については特別な理由がない限り、着実に、また、適正に執行することを要望した。

●補助金、補助事業、助成事業について

制度周知と計画性のある事業実施に努めるよう求めた。

●総合意見

以下について、要望しています。

- ◎「九重町まち・ひと・しごと総合戦略」の施策に基づき、住民と行政が協働し、一体となって取り組むことが必要不可欠であること。
- ◎今後の予算編成においては、経済性や社会情勢、投資効果を見極め、適正な予算執行に努めること。
- ◎住民にとって、わかりやすい行政情報の提供に心がけること。
- ◎適切な「選択と集中」を行い、行政効果、投資効果が最大限上がるよう効率的な財政運営を行うこと。

議会」を開催

議会からの回答

生活

介護タクシーの補助は

状況により、さまざまな制度があるので、健康福祉課まで相談して頂くのが一番良いと思います。

松木ダム、砂防ダムの対策

下流への水量を確保しながら、透明度の確保に努め、砂防ダムについては管理者である自衛隊湯布院駐屯地に管理の徹底を要望することを確認しました。

松木川に魚がない

生物多様性の面から、ダム下流の水質検査を新たに検討することを確認しました。

フッ化物洗口の対応は

多くの方に内容を理解していただくことが大切です。そのことを執行部に要望し議会としても議論を続けます。

公民館の使用料を取るのか

営利目的でなければ、町内ほとんどの団体が減免対象で、以前と大きく変わることはありません。ぜひ積極的にご利用ください。

ケーブルテレビの観光PRビデオは町外者向けに活用せねば

県外での観光宣伝にも活用しています。町内宿泊施設にも過去、配布していますが、改めて希望を募り配布します。

観光

吊橋振興のため、関係者、地元を含めた、「検討委員会」を作り、問題点や課題を共有すべき

案内看板設置、インバウンド対策に努め、委員会については、関係者に集まって頂き、意見交換の中で協議することを確認しました。

行政区再編に関する区長アンケートの結果は



4地区で「お出かけ

合併、統合を望む回答は極めて少なく、内容的に結果の公表は控えています。

このえまち
総合サービスの
今後は

社長の採用は公募で行い、会社の現状、今後の計画を含め、町民に分かりやすい説明を徹底することを確認しました。

将来

スクールのバスの
有効活用

目的に応じた補助金を使って購入しているため、目的外に使うためには許可が必要ですが、その条件が非常に厳しい現実があり、議会として今後も検討を重ねます。

道の駅をどう考える

町としての計画はありませんが、町民議論から一定の合意形成があれば、検討する事となります。議会として検討を続けます。



十三曲がりには常に危険、
新道路の可能性は

他の県道を代替路線として、県と連携し、町道四季彩ロードも対応します。

議会も県と常に安全性について協議を重ねていますが新道路については厳しいと考えます。

避難指示などの情報を
ケーブルテレビで流すべき

防災無線などに加え、今後はケーブルテレビのデータ放送で町内の状況や情報をリアルタイムで提供できるように取り組むことを確認しました。

防災

町政を質す 一般質問

8名が一般質問

県道飯田高原中村線は危険個所が多い 新たな道路は考えられないか

..... 別ルートは考えていない



佐藤 太治

● 県道飯田高原中村線について

佐藤 県道飯田高原中村線は雨が降ればがけ崩れがおきる。7月の大雨で第二発電所の上ががけ崩れをおこし、猪牟田、栗原が通行止めになった。30年以上片側通行、通行止めと満足に通行できたことはない。新しい道路は考えられないか。



ガケくずれをした県道

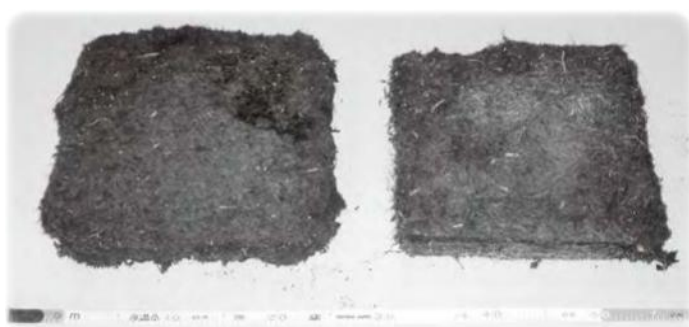
町長 通行止めになったら、田野宝泉寺停車場線、田野野上線、四季彩ロードを通行される方の安全を確保して、安心して利用していただけるように県に要望する。別のルートは考えていない。

● 地方創生について

佐藤 申請金額はいくらか。

現状はどうなっているか。今後はどうなるか。8割の自治体は外注しているが、九重町は独自性を重視し、町独自で作成した結果は。

町長 H27年より申請しH29年で、累計1億6、080万4、000円であり、町の独自性は出たと思う。現行の戦略に続く次期総合戦略を策定する必要がある。



地方創生で取り組んだバークマット

● 『道の駅』について

佐藤 『道の駅』は地方創生の核だと思う。全国1700の自治体があり1117の道の駅がある。まだまだ増えている。なぜ、取り組まないのか。多くの要望がある。



道の駅

町長 『道の駅』がうまくいってないところもある。まずは多くの住民の意見、合意形成が整うことが重要であると思っている。『道の駅』での拠点づくりは厳しいと思っている。

麻生 良典



観光振興の核とする組織(DMO)の 設立準備スタートから関係者と 協働すべき

----- 関連者や地域と早期に協働する

● 観光振興計画 特にDMO

麻生 平成29年度から10年間の観光振興計画が作成されている。目標達成には年次計画が必須だが、九重町DMOに係る予定や現状は。

町長 九重町DMO(観光地経営体)について、7月に関係課で準備委員会を立ち上げ、DMOの基礎や必要性、現状組織の課題等の基本事項を整理している。今年度中に九重町観光協会や商工会とすり合わせを行う

観光産業とDMO(観光地経営体)



宿泊施設、観光施設、交通事業者、飲食・商業、警備会社、行政などの業種を取りまとめる法人

DMOのイメージ

団体が入る予定である。観光地域づくりには多様な関係者との合意形成が肝要で、当然、地域の住民の方々も含まれる。スムーズに九重町の観光地経営体を立ち上げるために、検討委員会のみなならず、各種の関連団体や関係する地域の方々とも十分な意見交換を行う。

予定である。その後、検討委員会でDMOの役割等具体的なことを決める。

麻生 DMOは将来的に民間運営となる。現状、役場と観光協会の役割分担が不明瞭で各種資源が有効活用されていないようだ。これまでも同様な役場主導型は見直すべきスタイルであり、スタート時点から関連団体や住民と協働すべきである。観光協会には話をしたか。

町長 観光協会含めて関係者とは意見交換に至っていない。検討委員会には関連

● 玖珠美山高校の 支援

麻生 玖珠美山高校の存続を目的として町は財政的支援を行ったが、有効ではな

く予定した3年間で終了した。高校は大学教授や予備校講師を招いた教育講座、部コーチやトップアスリート招聘にも行政支援を活用するとしたが、大半は部活や研修の旅費であった。支援金の有効活用について高校と協議して進めたのか。

町長 3年間の両町支援額は、進学面では約600万円、就職面に約70万円、部



東大卒のニュースキャスター天明麻衣子さんが講演(今年の8月)

活には約1、230万円、その他として海外研修に約700万円、農業関係で約250万円。

旅費の占める割合が大きかったため、二年目に有効活用について協議したが、県立であるため方向修正するに至らなかった。

生徒にとってどうあるべきかという原点で、町と高校の思いに相違があったと感じており反省している。九重町と玖珠町の町長会でも支援の必要性は認識しており、高校との協議は継続する。

人口7千人でも安心して暮らせる町づくり 集落活動維持支援金どうする

-----区長会・地区協議会に提案して協議をはじめ



佐藤 明郎

● 町民みんなで 議論すべき

佐藤 人口が減少するなか、地域で安心して暮らすためには、防災・福祉すべてにおいて、集落活動の維持が基本と考える。そのための助成金の検討はどうなったのか。

町長 今後は少子高齢化に伴い、ソフト面に力を入れていく必要がある。

提案を受けた助成金については、全国の事例も参考に内部協議しているが、様々な課題もある。

佐藤 指摘のとおり課題は多いと思うが、将来的に必要性は高まると考える。今のうちに、区長さんをはじめ、町民の課題として、議論を広げるべきだ。

町長 助成金の効果的活用が望まれる。区長会、地区協議会等と議論をはじめると、一歩前進させた検討をしていきたい。

「小規模集落応援隊」をご活用ください！

～応援隊とともに集落を守りましょう～

高齢化率50%以上の集落が対象です

小規模集落応援隊とは？

小規模集落応援隊は、県と市町村とが共同で行っている事業で、人手不足で集落の共同作業の実施が困難になりつつある小規模集落へ、企業、NPO、ボランティア団体など様々な団体に応援隊の登録、応援活動の実施を呼びかけて小規模集落を支援しようというものです。

どんな作業を手伝ってくれるの？

人手が不足して作業が難しくなっている集落の共同作業を一緒にお手伝いします。

対象となる作業は、

- ・ 集落道などの草刈りや簡易補修
- ・ 集会所や公民館の掃除
- ・ 祭りの準備や神輿担ぎ
- ・ 鳥獣害防止柵等の設置作業

など様々です。

県の事業に
こんなのがあります
集落で検討してみては。
問合先
企画調整課 76-3807

学校現場の政治的中立

● 地元高校への進学を望む声をどう見る

佐藤 学校現場に政治的配慮があってはならず、中立性が大原則であるが、地域の声として、町内生徒は地元高校への進学を望む声は当然と考える。

中立原則の教育現場は、どう考えているのか。

教育長 どの進路を選ぶとも将来九重町に帰ってくる教育を目指している。

生徒、保護者の目指すものを尊重し、いずれの選択も、教育の中立性から応援していくこととなる。

基本的に、進路について誘導をするような教育は、できないと判断している。



大津留 敏加



別府一の宮線『やまなみハイウェイ』の歩道整備の実現を

…… 同県道の両側を県に要望しており、実現させたい

● 別府一の宮線の歩道について

大津留

飯田高原のスポーツツーリズムに向けたこの県道の歩道拡幅の進捗状況、並びに周辺の県道田野庄内線「JA飯田高原ドライブインから飯田こども園を経由して長者原」の間を含む15～20キロの周回コースができれば実業団等の長期合宿などが增える。

町長

同県道のJA飯田高原ドライブインから長者原までの区間約5キロの改修工事を行っている。8月末現在1・1キロ完成。残りの区間は平成31年度末までに完成と聞いている。



歩道整備が進んでいる県道(やまなみハイウェイ)

町長

スポーツツーリズムは九重町のまち・ひと・しごと総合戦略の重点項目の1つであり、観光振興に寄与できよう取り組みたい。

● 平成30年7月豪雨の被害状況は

大津留

7月6日の夕方ごろから7日にかけて発生した豪雨により、道路・耕地関係、町の水道施設等が被災し、多くの被害が発生している。被害状況について。

町長

町内の青野山観測所のデータによると総雨量が310ミリ、7月7日の午前1時から2時の1時間に47ミリの豪雨であった。被



水田法面の災害

● 災害復旧状況について

町長

町道の土砂崩れ等崩壊した所はほぼ土砂の撤去は終わっている。道路関係は10月、農地農業施設は10～11月に国の現地確認と査定を受け、復旧規模及び復旧方法が確定後、随時工事を発注していく。

● 災害時の情報の伝達について

大津留

町道等の災害が発生した場合は、速やかに防災無線放送で情報の伝達は出来ないか。

町長

防災無線放送で常時放送を流すことは厳しい。

町のホームページや他の情報伝達網がある部分については、活用し早く情報の伝達に努めたい。

人口が減少しても 安心して暮らせる町に

----- 住民主体のまちづくりが大原則



井上 里子

第4次総合計画、 効果的な推進を

井上 第4次総合計画には

143の施策が盛り込まれている。計画実施期間の前期5年間が終った段階で、中間総括が作成されているが、その中で、施策の推進状況及び課題・問題点の把握が不十分と思えるものがある。残る3年半の計画実施期間に、施策を効果的に

本町人口の年代別人数		
	H19年 3月末現在	H30年 3月末現在
90歳以上	204人	336人
80代	984人	1,234人
70代	1,763人	1,394人
60代	1,575人	1,749人
50代	1,906人	1,162人
40代	1,175人	937人
30代	973人	824人
20代	962人	618人
10代	1,080人	670人
0～9歳	749人	673人
合計	11,371人	9,599人

- 平成30年3月末の20代（618人）は、19年3月末は10代で、1,080人。11年間で462人（42.7%）減少。
- 平成30年3月末の10代（670人）が、10年後20代になった時の人数は？

井上 本町も20代の人口減少が著しい（左記の表参照）。今後も、20代をはじめ青年層の人口減少対策に力を入れなければならぬが、それでも人口は減少する。人口が減少しても、住民が安心して暮らせる町づくり

町長 住民主体のまちづくりをしていくことが大原則だと考えている。具体的な施策等については、住民との対話の中で、一つ一つ拾いおこしをしながら一緒に考えていくことが何より大事だと考えている。

男性壮年期の健康管理充実の取り組みを

井上 本町の平成30年3月末の人口を年代別男女別に集計してみると、男性は60代まではずっと女性より人数が多いが、70代以上は女性よりもかなり少なくなっている（左記の表参照）。

男性高齢者の人数が多くなるとは、本人、町、地域にとって望ましい。元氣な壮年期頃からの十分な取り組みである。男性高年齢者の推進に努めている。事業所単位で、青年期の健康増進を図ろうとする取り組みである。

本町人口の年代別男女別人数 H30年3月末現在		
	男性	女性
90歳以上	75人	261人
80代	480人	756人
70代	603人	791人
60代	905人	844人
50代	582人	580人
40代	479人	458人
30代	426人	398人
20代	328人	290人
10代	346人	324人
0～9歳	332人	341人
合計	4,556人	5,043人

（男性と女性で、人数が多い方が■）

「あるとつく」とは、県が開発した健康アプリ〈おおいた歩得（あるとつく）〉を利用してポイントが貯まると、県内の協力店で特典が受けられる仕組み

公共施設のトイレ、 洋式化計画は

井上 今年2月に、女性住民から「保健センターの女性トイレは洋式が1つしかないの（和式は3つある）、和式を1つでも洋式にしてもらいたい」と要望があつた。

町長 現在、公共施設のトイレは55%程度が洋式になっている。各課で現状を把握している。本年度はできないが、計画的に順次洋式にしていく。

佐藤 博美



行政支援打ち切り 玖珠美山高校存続できるのか!!

…………… 校長先生を交えて町長会で協議していきたい



玖珠美山高校

佐藤 両町で一千万円を玖珠美山高校に支援してきたが、29年度で終了した。今でも定員割れが続いている中、玖珠郡に高校を存続させる事は大切だ。行政としてどう取り組む。

町長 年間一千万円の支援は、3年間という事が前提だったので打ち切りはした。今後校長先生と話をし、実質的に何が必要なのかという、具体策を聞きながら、町長会で協議をし、対応していきたい。

● 教育委員会部局としての取り組みは？

佐藤 教育委員会部局として、地元高校を存続させるために、どんな取り組みをしているのか。

● 情報提供はしているが…

教育長 緑陽中ではすべての子どもたちを、美山高校の説明会、オープンキャンパスに行かせ、他の高校以上の情報提供はしている。多様化している進路選択の中で最後は、保護者、子供の選択の結果となる。地元の高校という事の意義は忘れずに取り組みはしていきたい。

● ふるさと納税増やす対策は…

佐藤 都市と地方の格差をなくすためにできた「ふるさと納税制度」、九重町ではほとんど伸びていない。本来に組み入れている所は、10億円以上の寄付を集めて

いる。行政だけで行うには限界がある。民間への委託も含めて、今後の対策を考えては…。

● このえ総合サービス株式会社、本格始動に向けた取り組みは



ふるさと納税パンフ

佐藤 あと一年半後にせまった本格始動に向けての動きが遅い。役場の職員だけでなく、専門家や民間の若い人達も参画させ、どんな収益事業を、どう行うのか計画を立てないと、社長を公募しても来ない。早急に対策を。

● 返礼品の数を増やしPRのポスターも

町長 先日32億円のふるさと納税を集めている国東市へも視察に行き、アドバイスも受けた。まずは返礼品の品数を増やしていきたい。民間への委託については、民間の意向も含めて検討していきたい。

● 計画は実施するための準備これから進めていく

町長 公益的な事業と民間的な事業、これがある程度絞り込みはしている。内部の協議、それから今提案のあった外部の人達も含めた協議をこれから進めていきたい。

スマートフォンで町民参画の町づくりを



藤原 三治

-----執行部内で検討したい

● 町民の目と声を スマホで町づくりに

藤原 道路の破損・支障木や災害時の危険情報を町民のスマホから提供発信するシステムを構築してはどうか。格安の予算で実行可能で、町民が気軽に町政に関心を持つ大きなメリットも、近隣の先進地に学び、早急な実行を望む。



スマホを使った情報提供

町長 GPSで写真の位置が特定できる。執行部内で検討したい。

● 増える海外からの客 今後の対策は

藤原 来年のラグビー、再来年のオリンピックは誘客のチャンスだ。インバウンドの実態と今後の対策は。国や県の動向を見極めて乗り遅れないような対応を望む。

町長 大吊橋は三年間で海外の客は倍増、これからの増加は予想される。町も長いスパンで町のいい所を売り出していきたい。

● スキーツアーで 海外交流を

藤原 将来ある海外の学生や若人にスキーツアーを通じて交流を行ってはどうか。

町長 町は28年から教育旅行で台湾と交流を始め、高雄市の中学校と姉妹校提携も進行中で、具体的に交流を深めていきたいと考える。

● 観光業に海外研修生 制度活用を

藤原 新たに認可される観光業の海外研修生制度、英語力等の外国語強化、海外の観光客に対する接客、対応等、日本人従業員との相互研修等を支援をしてはどうか。

町長 技能実習法があり法に基づいて行えば問題は無いが、今のところ具体的には考えていない。

● どうなった電気自動 車充電設備設置は

藤原 二年前に提案した充電施設、玖珠町と由布院にあつて、自然エネルギー、地熱発電、自給率日本一の九重町は民間に二台しかない充電施設。町内4地区に設置を考えられないか。

町長 民間業者から設置の話があり、大吊橋に設置する方向で手続きを進めていきたい。

● 教育とは何ぞや

藤原 教育長が緑陽中学校時代、卒業生を送る言葉に「時代はどんどん変わっていく、強く優しくたくましく、どんな時代でも対応できる人間性を」と話されたが、全国で大きな問題になっている引きこもり、不登校について、家庭、学校、社会教育について教育長の考えを聞きたい。

教育長 引きこもり、不登校、退職離職が大きな社会問題になっている。県が「引きこもり家族会」を作り対応している。医療・教育・労働・福祉に関する問題であり、一本化して相談窓口を設置していきたいと考えている。

増田 裕子



20年後の町をどう描いて進めるか？

..... 来年以降示して共有していきたい

● このえまち総合サービス株式会社に ついて現状は

増田 副町長や課長の取締役兼務の具体的な動きは。

町長 取締役会は昨年度3回、今年度4回、時間外に開催。随時協議もしており役場業務に支障はない。

増田 役員2名の仕事内容や会社の運営は。

町長 社員1名は施設部門で臨時職3名と吊橋に勤務。泉水に臨時職3名。社員1名は管理販売部門として企画調整課内の会社に出社している。当初臨時職をもう1名雇用する予定だったが応募がなく、今年度はこの体制でいく。

● 庭先集荷サービスの 状況

増田 福岡での朝市は。

町長 毎週土曜日の8時から10時まで店の駐車場で行う。前日旧温泉館で集荷・出荷準備。福岡には、社員2名と役場職員1名、2名同行する。地元の好意で声掛けをしてもらい、最近では4、50人集まる。残った野菜は業者が引き取り、10万円前後の売上がある。



駐車場での朝市(福岡)

増田 役場職員は社員ではないのになぜ同行するのか。

町長 町のPRということと職員が支援という形で行っている。長期化はさせ



出荷野菜と町のPR

ない。あと1年半後にむけ、しつかり検討する。

● 会社の仕事内容や 取組を町内に広く 知らせるべき

増田 ふるさと館等の農産物販売所や商工会などに、説明や相談をしたか。町民や役場内各課との情報共有や連携は非常に重要だ。

町長 会社としてはあくまで民間であるので、そういう施設等に声かけはしていない。今後の展開で提言を活かしていきたい。

● 会社と役場業務を きちんと分けて

増田 行政のスリム化という当初の目的が逆行している。役場外で会社の事務所の計画はあるか。

町長 町有施設の中でできるだけ早めに設置したい。

● 町の将来像について

増田 町の特色として、人口は減るが、20年間毎年70人前後の出生があり、明るい。20年後、人口6、7千人でも暮らしやすい町づくりの将来像は。展望を示して対話を進めるべき。

町長 将来の絵を描くことは重要。皆が理解し合い共有することが大事。来年以降示していかなければならないと思っている。

防災について

町として防災月間を設けることを提案しました。

議会広報特別委員会

視察報告

より皆さんに読んでいただける議会だよりを作るために、広報紙づくりで評価の高い福岡県新宮町と大木町の議会を訪れ、意見交換を行った。

いずれの町も見やすく読みやすくするために、縦書きや横書きの記事それに画像や余白も上手に配置していた。音声を文字に変換するソフトを用いて短時間で議事録を作成したり、市販の編集ソフトで好みに応じてレイアウトをしたり、最新の技術を導入した工夫も見られた。

我々委員会としては、多くのことを短期間で試すことは困難だが、今回の議会だよりから少しずつ取り入れて、読みやすく分かりやすい紙面づくりに努力します。



玖珠郡歯科医師会との意見交換

(フッ化物洗口)

玖珠郡歯科医師会から学校でのフッ化物洗口実施を求める嘆願書が6月に提出され、意見交換を行いました。歯科医師会と議会はこの事をお互いに確認しました。

- ・保護者等の関係者が十分に理解し納得した上で実施する。
- ・委員会、講演会等の活動は制限されない。
- ・洗口に係る予算案が提出されれば、当然審議する。
- ・フッ化物洗口液は医薬品で、フッ化物洗口は虫歯予防に効果がある。
- ・マニュアルに従えば、学校でのフッ化物洗口で事故は起きていない。

検討委員会、学校や保護者との話し合い、学習会での状況を把握し、議会内で議論を進めます。

飯田養豚場建設に関する意見聴取

飯田養豚場建設反対協議会より意見聴取会開催の依頼があり、会期中に実施しました。協議会から、関係機関との意見交換、関係法令や文書の調査に基づき、次の事柄について詳しい説明がありました。

- ・建設用地林地開発
- ・畜産の工業化
- ・用地の位置
- ・施設内部
- ・用地買収と開発条例
- ・公害防止協定
- ・観光への影響

協議会は飯田高原の雄大な自然保持に努めることを議会に望んでおり、各方面の現状を知るよい機会であった。

議員ソフト(県体)

雨が降る中の県体開会式。試合日が二日後に変更となり、曇天の中を出発したが、会場の佐伯市は好天。玖珠町と共に汗だくになり打ったり守ったり声を飛ばしたり。一勝一敗でしたが秋空のもと友好的で健康的な一日でした。



あたしのひまわり

町で初の

少年消防クラブ結成

南山田 中板

飯田 憲治さん



私は平成3年に消防団に入団しました。この年は、台風19号が町に大きな被害を残した年でした。入団後15年ぐらいいは火災も多く発生していました。最近では火災も少なくなり団員として安心した毎日を過ごせています。消防団として活動する中で今一番の問題が、団員の減少が目立ってきている事です。地元若者がいてもなかなか消防団に入ってくれないのが現状です。今後団員の減少が進めば、自分達の地域を火災や災害から守る事が難しくなります。その様な問題をふまえ昨年10月～12

月にかけて県庁において「大分県地域消防アドバイザー」の認定を受けてきました。県では各市町村独自の方法でこれからの消防の取組を考え行ってほしいとの事でした。九重町では、今回南山田小学校の児童4年～6年生を中心に、「南山田少年消防クラブ」を結成しました。これは消防団や地域との関わりを持ち消防の輪を広げてもらいたい、又、将来地元に残った時は消防団に入ってほしいとの思いで結成しました。8月には一回目の視察研修も行いました。まだ始まったばかりですが、今後がんばっていききたいと思えます。



初の研修先で敬礼

このえの自然食材を

みんなに発信したい

東飯田 北代住宅

石松 裕輝さん



関西の仏料理店で働いていた時に、友人から「大分にいいホテルがある」とときき訪れたのが飯田高原のボスコでした。この自然に囲まれて仕事をしてみたいと移り住んだのが14年前の事です。都会では窓のない厨房で朝から晩まで仕事をしていたのですが、澄んだ空気の中、季節の移ろいを感じながら働ける贅沢な日常がこの町にはありました。一日の仕事を終え、空を見上げると満天の星空。何

という幸せ!!
その後、紆余曲折を経て上京したり独立したこともありましたが、結婚して長男が生まれ、7年前に再び戻って来ました。
春は山菜採りや野焼き、夏は涼しく、秋は栗を拾い栗ジャム作り、冬は雪景色の中で露天風呂。
ここでゲストに提供するのにはフレンチイタリアンの料理です。野菜や肉魚できる限り玖珠九重～大分県産のものを使っています。遠方とくに都会から訪れるゲストが多いので、この自然の中でいただくのにふさわしい料理を心がけています。そして、より多くの方に九重・飯田高原の自然を知って頂けるように発信していきます。



ようこそ(いらっやい)

ぜひ傍聴へどうぞ 次回12月は夜間議会です



野上ふれあい交流センター
落成式に合わせた文化祭



軽トラ市を初開催
東飯田楽市まーじゃら



このえ
ふれあいと便り
第11便



筋湯温泉観月祭
(舞台を盛り上げる商工女性部)



南山田地区体育大会
かわいらしい選手宣誓

議会だよりについてご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集後記

毎年、第三回定例会の会期中に、九重町戦没者慰霊祭が行われます。

議会は町民の意志を代表する機関として、より良い環境、より満足度を高めるために、努力を続けていますが、今の町、今の生活があるのは、決して当り前の事ではなく、故郷の幸福を想いながら、戦禍に倒れた多くのの方々の犠牲があったことを、忘れてはならないと思います。

年々参列者が減少する中、73年経った今こそ、私達は改めて、感謝と歴史を再認識すべき時では、そして尊い犠牲になられた方々の思いを忘れず、議会活動に取り組みたいと思います。

佐藤 明郎



・広報委員長 佐藤 明郎
・副委員長 麻生 良典
・委員 佐藤 博美
・委員 土井 眞一郎
・委員 増田 裕子
・委員 佐藤 太治